

北見市における景気動向調査報告書

< 第 I 四半期 >

北見商工会議所

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 平成30年7月17日

(2) 調査対象期間 平成30年4月～6月期実績および平成30年7月～9月期見通しについて調査した。

2. 調査対象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を往復ハガキにより調査した。

3. 回収状況

| 業種 | 企業数 | 対象企業数 | 回答企業数 | 回答率 |
|-------|-----|-------|-------|-------|
| 製造業 | | 30社 | 22社 | 73.3% |
| 建設業 | | 30社 | 21社 | 70.0% |
| 卸売業 | | 30社 | 21社 | 70.0% |
| 小売業 | | 35社 | 23社 | 65.7% |
| サービス業 | | 25社 | 18社 | 72.0% |
| 合計 | | 150社 | 105社 | 70.0% |

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

Ⅱ．概 況

《 全 体 の 動 き 》

平成30年度第Ⅰ四半期<4月～6月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」16.2%、「悪化企業」39.0%、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△22.8となっています。このD・I値を、前年同期(△1.8)と比較してみると21.0ポイントの悪化傾向を示しています。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値0、建設業D・I値△28.6、卸売業D・I値△23.9、小売業D・I値△26.1、サービス業D・I値△38.9となっており、前年同期調査と比較すると、製造業で13.6ポイントの改善傾向が見られましたが、建設業が55.9ポイント、サービス業が36.4ポイント、小売業が35.2ポイント、卸売業が27.9ポイント悪化となり、全体的に大幅な悪化傾向を示しました。

来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」15.2%「悪化企業」37.1%でD・I値△21.9と、前年同期見通し(△7.5)に比べ14.4ポイントの悪化となり、厳しい状況が続く来期見通しとなっております。

《 業 種 別 の 動 き 》

1) 製 造 業

生 産 高

前年比で「増加企業」31.8%、「減少企業」13.6%、D・I値18.2と前年同期に比べ31.9ポイントの好転となりました。

採 算

前年比で「好転企業」27.3%、「悪化企業」27.3%、D・I値0と、前年同期に比べ22.7ポイントの好転を示しました。

来期見通し

業況D・I値9.1、生産高D・I値△9.1、資金繰りD・I値△9.1と、前年同期と比べ全てで若干好転傾向を示す結果となりました。

2) 建 設 業

完 成 工 事 高

前年比で「増加企業」9.5%、「減少企業」38.1%、D・I値△28.6と、前年同期と比べ51.4ポイントの大幅な悪化となりました。

採 算

前年比で「好転企業」4.8%、「悪化企業」42.9%、D・I値△38.1と、前年同期に比べ42.6ポイントの悪化となりました。

来期見通し

業況D・I値△38.1、完成工事高D・I値△42.9、資金繰りD・I値△23.8と前年同期に比べすべて悪化を示す結果となりました。

3) 卸売業

売上高

前年比で「増加企業」23.8%、「減少企業」42.9%、D・I値△19.1と、前年同期と比べ35.1ポイントの悪化となりました。

採算

前期比で「好転企業」23.8%、「悪化企業」52.4%、D・I値△28.6と前年同期に比べ40.6ポイントの悪化となりました。

来期見通し

業況D・I値△9.5、売上高D・I値△4.8、資金繰りD・I値△9.5と、前年同期と比べ全てで悪化を示す結果となりました。

4) 小売業

売上高

前年比で「増加企業」21.7%「減少企業」39.1%、D・I値△17.4と、前年同期に比べ8.2ポイントの悪化となりました。

採算

前年比で「好転企業」21.7%「悪化企業」34.8%、D・I値△13.1と、前年同期に比べ5.1ポイントの好転となりました。

来期見通し

業況D・I値△13.1、売上高D・I値△13.1、資金繰りD・I値△17.4と、前年同期と比べ全てで好転傾向を示す結果となりました。

5) サービス業

売上高

前年比で「増加企業」16.7%、「減少企業」55.6%、D・I値△38.9と、前年同期と比べ、26.3ポイントの悪化となりました。

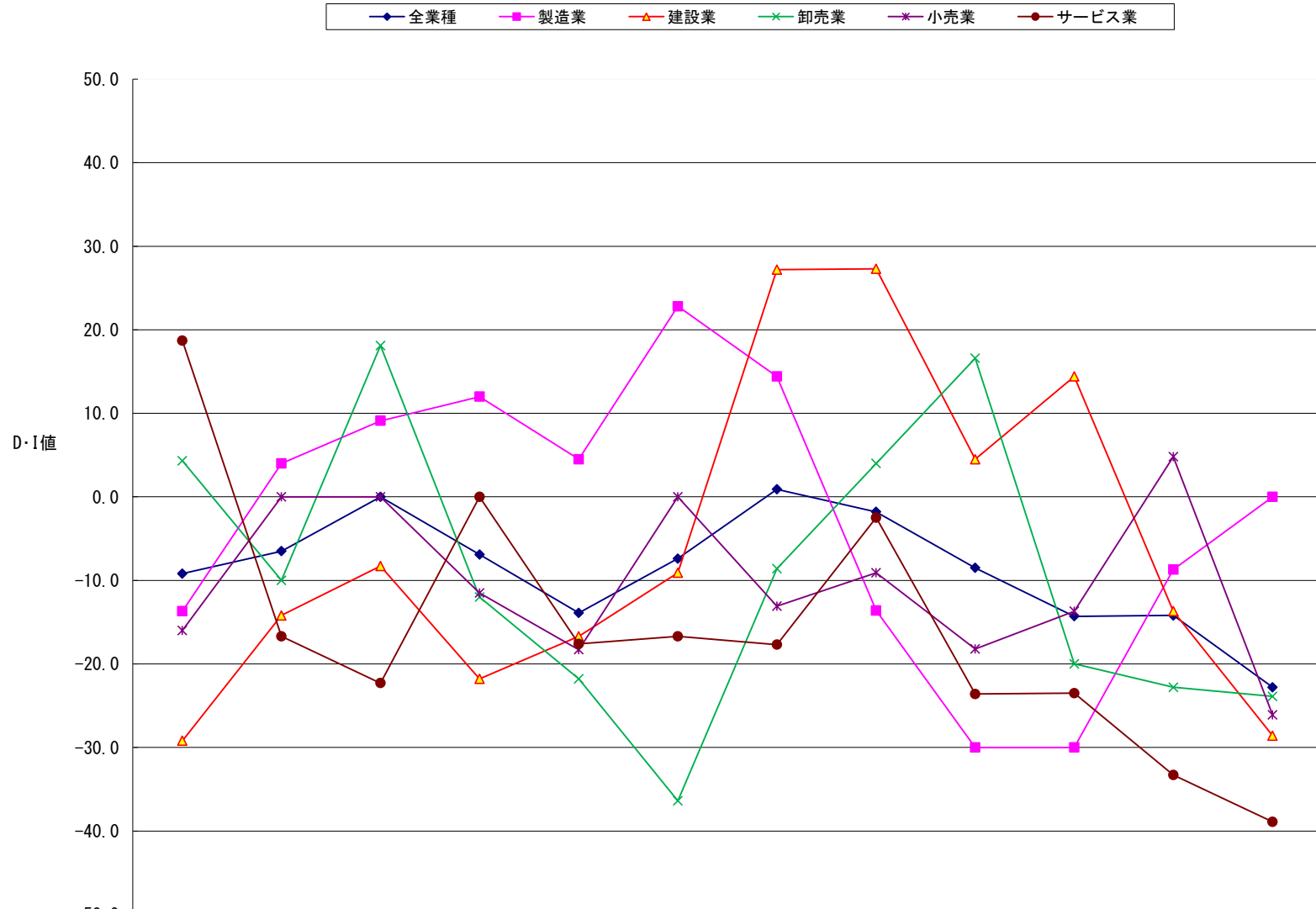
採算

前年比で「好転企業」5.6%、「悪化企業」50.0%、D・I値△44.4と、前年同期に比べ26.2ポイントの悪化を示しました。

来期見通し

業況D・I値△44.4、売上高D・I値△38.9、資金繰りD・I値△44.4と、前年同期に比べ、全てで悪化を示す結果となりました。

各年度調査期における業況（前年同期比）のD・I値の比較



| | 27.7~9 27年度II | 27.10~12 27年度III | 28.1~3 27年度IV | 28.4~6 28年度I | 28.7~9 28年度II | 28.10~12 28年度III | 29.1~3 28年度IV | 29.4~6 29年度I | 29.7~9 29年度II | 29.10~12 29年度III | 30.1~3 29年度IV | 30.4~6 30年度I |
|--------|------------------|---------------------|------------------|-----------------|------------------|---------------------|------------------|-----------------|------------------|---------------------|------------------|-----------------|
| ◆全業種 | -9.2 | -6.5 | 0.0 | -6.9 | -13.9 | -7.4 | 0.9 | -1.8 | -8.5 | -14.3 | -14.2 | -22.8 |
| ■製造業 | -13.7 | 4.0 | 9.1 | 12.0 | 4.5 | 22.8 | 14.4 | -13.6 | -30.0 | -30.0 | -8.7 | 0.0 |
| ▲建設業 | -29.2 | -14.2 | -8.3 | -21.8 | -16.7 | -9.1 | 27.2 | 27.3 | 4.5 | 14.4 | -13.7 | -28.6 |
| ✕卸売業 | 4.3 | -10.0 | 18.1 | -12.0 | -21.8 | -36.4 | -8.6 | 4.0 | 16.6 | -20.0 | -22.8 | -23.9 |
| ✱小売業 | -16.0 | 0.0 | 0.0 | -11.5 | -18.3 | 0.0 | -13.1 | -9.1 | -18.2 | -13.7 | 4.8 | -26.1 |
| ●サービス業 | 18.7 | -16.7 | -22.3 | 0.0 | -17.6 | -16.7 | -17.7 | -2.5 | -23.6 | -23.5 | -33.3 | -38.9 |

各年度調査期

業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

| | 1 位 | 2 位 | 3 位 | 4 位 | 5 位 |
|-----------|-----------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 製 造 業 | 諸 経 費 増 | 人 材 不 足 | 人 件 費 増 | 得 意 先 減 少 | 同 業 者 間 の 競 合 |
| 建 設 業 | 人 材 不 足 | 諸 経 費 増 | 人 件 費 増 | 同 業 者 間 の 競 合 | 得 意 先 減 少 |
| 卸 売 業 | 人 材 不 足 | 同 業 者 間 の 競 合 | 得 意 先 減 少 | 諸 経 費 増 | 人 件 費 増 |
| 小 売 業 | 得 意 先 減 少 | 諸 経 費 増 | 同 業 者 間 の 競 合 | 人 材 不 足 | 資 金 調 達 困 難 |
| サ ー ビ ス 業 | 諸 経 費 増 | 人 件 費 増 | 人 材 不 足 | 得 意 先 減 少 | 同 業 者 間 の 競 合 |
| 合 計 | 諸 経 費 増 | 人 材 不 足 | 人 件 費 増 | 得 意 先 減 少 | 同 業 者 間 の 競 合 |

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

全業種で見ると、前回調査の1位と2位が入れ替わり「諸経費増」がトップとなり、その他は、前回調査と順位に変動は無かった。

業種別で見ると、建設業、卸売業、製造業で人材不足が1位、2位となっており、前回調査と同様に「人材不足」が深刻な問題となっている。

また、「諸経費増」がほとんどの業種で課題として挙げられており、原油高の影響等によるコストアップが伺われる。

※その他及び具体的な問題点の記載事項 (※は複数事業者が回答)

(製造) ○人材不足、利益減少 (鋳物製品製造)

(建設) ○高齢化、年間通しての工事受注が不透明である (土木)

○原油高に困る、運搬物流高の資材値より、コストが上昇している (板金)

(卸売) ○少子化問題 (一般玩具)

○人材育成と社員教育の充実 (農薬農業資材)

(サービス) ○老舗の消失 (画材)

業 況

(太字アンダーラインは複数事業所が回答)

製造業 ⇒ 好転 (農産物加工製造、生麺類等販売、一般機械、建設用金属製品)
悪化 (松製材、木製建具、鋳物製品製造、石材加工、農業用機械)

建設業 ⇒ 好転（一般住宅建築）

悪化（土木、塗装、電気工事、板金）

卸売業 ⇒ 好転（鉄鋼、製材、作業服製造、建築資材）

悪化（業務用食品卸、製菓原材料機器、食品、家電、建築資材・家具、自動車部品、
医療・介護福祉機器、一般玩具、農薬農業資材）

小売業 ⇒ 好転（食肉、眼鏡販売）

悪化（衣料品、時計、酒、自動車、画材、生鮮食品）

サービス業 ⇒ 好転（理美容）

悪化（ホテル、飲食、建物清掃、弁当仕出）